

会 議 議 事 録

1 会議名	令和5年度 第1回長岡市栃尾美術館協議会
2 開催日時	令和5年7月21日（金曜日） 午前10時から11時30分まで
3 開催場所	長岡市栃尾美術館 1階 アトリエ
4 出席者名	（委 員）7名 境野 委員、星野 委員、北山 委員、岡村 委員、柴田 委員 山本 委員、渡辺 委員 （事務局）6名 竹内教育部長、梅沢中央図書館長、五井中央図書館長補佐 近藤栃尾美術館長、酒井会計年度任用職員（学芸員） 五十嵐会計年度任用職員（学芸員）
5 欠席者名	目黒 委員
6 議題	（1）正副会長の選出 （2）報告事項 ①令和4年度後期事業報告について ②令和5年度事業計画について （3）協議事項 ・普及活動について
7 審議結果の概要	議題（1）について 境野委員を会長に、星野委員を副会長に選出した。 議題（2）、（3）について 事務局提案のとおり決定した。
8 審議の内容	
会長	（1）正副会長の選出 会長に境野広志委員、副会長に星野正子委員が選出された。 （2）報告事項 ①令和4年度後期事業報告について （資料1－1、1－2、1－3、1－4により説明） この説明に対して、ご意見等はあるか。
会長	普及事業の「とちびまつり」の参加者が多い理由は何か。
事務局	新型コロナウイルスが落ち着き、以前の形に戻したことが大きいかもしれない。
委員	企画展の増井和弘展の入りがよくなかったのではないかな。

事務局	作品の内容は面白かったが、集客にはつながらなかった。
委員	昨年度はまだ新型コロナウイルスの影響があった。下半期もまだまだ影響を考えるべき時期かと思う。 ②令和5年度事業計画について (資料2により説明)
会長	この説明に対して、ご質問等はあるか。
委員	「ふるさとのこどもたち展」は、栃尾地域の子どもの減少し、作品数も減少している。そのため、今年は一人一点ではなく複数点出品するよう地域内の幼保こども園に周知している。出品するためには、今から各園に言わないと準備ができない。
事務局	これまで栃尾地域の各園には、一人一点で依頼していたが、展覧会を維持する対策として今年から出品数の制限をなくした。
委員	中原淳一展を観覧した人から、中学生時代に中原さんの作品が美術の教科書に出ていて、懐かしくて観てきたと聞いた。近所の皆さんには暑い日が続く中、美術館で涼んで来てほしいと言っている。
事務局	すでに市から公共の施設を「涼みどころ」に指定し、そこで涼むよう奨励している。
会長	大切なことはここに足を運ぶきっかけだ。市街地から遠いためか、どんなことをしているか知らない人が多い。やはり情報発信は重要、チラシやポスター以外に、もっとSNSを活用すべき。ホームページは自分から見に行く必要があるが、SNSは登録しておけば毎回入ることができ有効。国道の電光掲示板に栃尾美術館の情報が出ているが、そういったことも含め、多くの情報発信が必要だ。電光掲示板に画像は入らないか。画像があるともっと興味を持たせられると思う。
事務局	電光掲示板には画像は入れられない。文字数も制限がある。
委員	画像が入らないのは仕方がないが、今回の中原淳一展のポスターはインパクトがあり、あの画像があると発信力は大きいと思った。
委員	あの電光掲示板の設置時にはいろいろあった。当初はトンネルの入り口付近に設置予定だったが、紆余曲折あって今の位置になった。

事務局	電光掲示板を見て来たというアンケート結果もいくつかあり、効果が出ている。
委員	中原淳一展の内容を考えるとデザイン学校の学生などに伝えるべきと思った。デザインは昔に描かれても新しさがある。
委員	以前、知り合いの作家のギャラリー展示を見に来た。その時、偶然開催中の展示に関心を持ち鑑賞した。やはり来館するきっかけづくりに力を入れ、工夫する必要があるのではないか。
事務局	展覧会も普及活動も美術館に来るきっかけ作りだと考えている。目的は多種多様でも、楽しめる空間づくりに努めていきたい。
委員	自分の団体でチラシの配布先に困った。イベント直前になって駅前ホテルや道の駅に置いてもらった。目的に応じて配布先を考える必要があるように思う。
事務局	市教委で今、全児童生徒にタブレットを配付している。その中で、展覧会の案内をいつでも引き出せるようにしている。それにより保護者と子ども両方が見られる環境にある。
委員	情報発信が絶対必要、それが入口だと思う。県内外に向けて情報発信しているか。
事務局	全県にチラシ、ポスターを配布している。県外でも関わりのある美術館等の施設等に送付している。特に市内はよりきめ細かく配布しているが、送っても実際に掲示や配布しているのか、確認が難しい。
会長	高校生など、自分の娘を考えればカラオケボックス。お店のエレベーターにでも貼ってあれば効果は高いと思う。
事務局	展覧会の内容や規模によってチラシやポスターの発送先は変えている。ポスターやチラシの数に限りがあり、ある程度送付先、送付数は調整が必要。
	(3) 協議事項について ・普及活動について (資料4により説明)
会長	この説明に対して、ご意見等はあるか。

委員	私は栃尾地域に在住している。小さな子どもをお持ちの方には園等を通じてチラシ等を受け取ると思うが、私の場合はそういった機会がなく、チラシやポスターを見る機会がない。結果情報は入ってこないため何をやっているのか分からない。他に企画がほぼ子どもや家族層向けで、自分のような40歳代や30歳、20歳代も含め、企画によって足が向かない場合が多い。それらの世代には美術的な活動に興味を持っている人がたくさんいると思う。まずはこういった人をターゲットにするのか考えるべき。造形講座や写真講座もあるが、それも内容がよく分からないので明確にしたほうがいい。
事務局	「夏休み☆まいにち工作」のチラシは対象にあわせ幼稚園や保育園に配布している。そのほか市内施設に配布した。小学校はタブレットに配信した。今年から誰でも参加対象の「つきいち☆アート」を始めたが、大人の参加が少ない。「小学生以下は保護者同伴」等の表記で、親子対象だと思われてしまうのかもしれない。
委員	確かに付添1名までと記載されていると子ども向けだと思う。
委員	参加費100円だと大人向けとは思わない。
委員	単発の講座でも1000円、2000円払ってでも教わりたいと思うので、価格の安さと集客は関係ない。
委員	個人で講座をやるなら100円ではやらないし、12人しか集まらなかったら失敗だったと思う。公共施設はそうではないと思うが。
会長	陶芸は人気があるが、どこでもやっている。栃尾なら手毬や織物、専門性の高いメニューがあるといい。今年から始まった写真講座はそれにあたるのかもしれない。
委員	自分も写真に興味があるので、写真講座は気になる。ただ、どのような写真を撮るための講座なのか、どのレベルの内容なのかが明確でないと参加しても失望するかもしれない。
委員	一貫性をもってWSや企画展をやったほうがいい。栃尾美術館の独自性を打ち出すべき。
会長	そこはとても重要だ。単発ではなく、連続性が重要。
事務局	今後の美術館の在り様を考えると、どうしても地域とつながりは外せない。となると普及活動は大切になる。写真にしても地域素材をメ

事務局	インに持ってくるなど地域性を出していくことが考えられる。 普及事業については、これまで、こども向けに力を入れてきたため、こども造形講座や「まいにち☆工作」など、かなり定着してきた。今後は大人向け講座も重視し、バランスをとっていきたい。
委員	子ども向けの講座やワークショップは、子どもたちに美術館を教えるという意味でとてもよかった。孫はここで学んで陶芸への関心が増した。
委員	広報について、自分の町内の掲示板があるので、そこに掲示してもいい。自分がその係なので早速貼る。
委員	自分の関わった折り紙の企画展は図書館と連動して特設コーナーを設けてもらった。企画が終わっても続けてくれている。どこでも頼めるところは頼んだほうがいい。そうすることでこちらの意気込みは伝わるのではないか。 以上